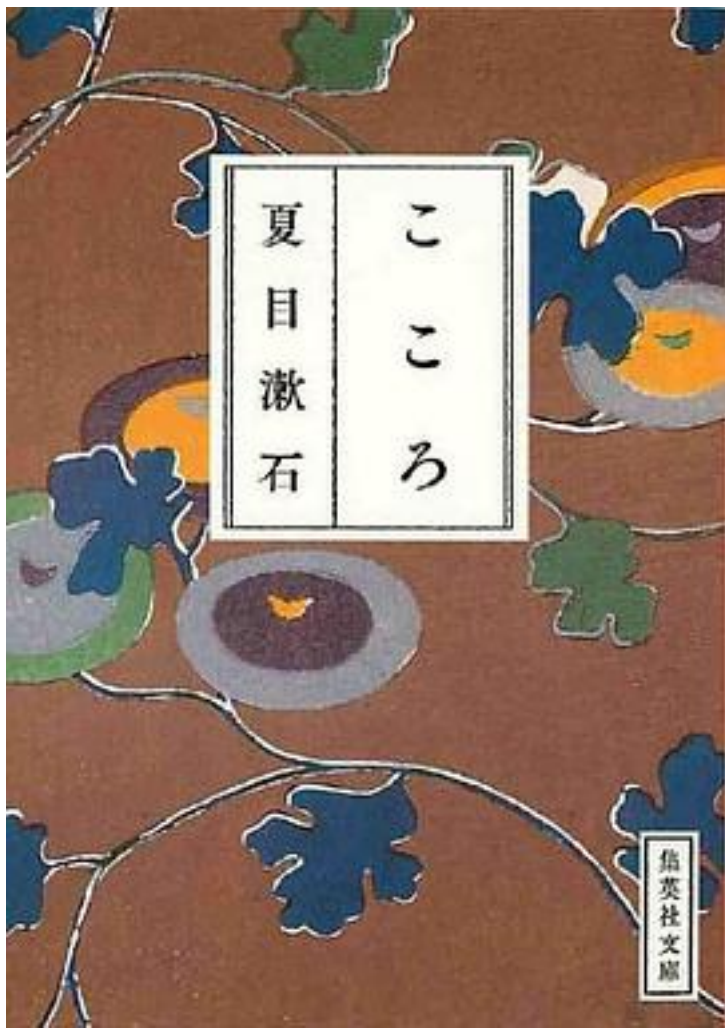


# こころ



[こころ 下载链接1](#)

著者:[日] 夏目漱石

出版者:新潮社

出版时间:2004-3

装帧:文庫

isbn:9784101010137

「先生と私」「両親と私」「先生と遺書」の三部からなる、夏目漱石の長編小説。拭

い去れない過去の罪悪感を背負ったまま、世間の目から隠れるように暮らす“先生”と“私”との交流を通して、人の「こころ」の奥底を、漱石が鋭い洞察と筆力によって描いた不朽の名作。学生だった私は鎌倉の海岸で“先生”に出会い、その超然とした姿に強く惹かれていく。しかし、交流を深めていく中で、“先生”の過去が触れてはいけない暗部として引っかかり続ける。他人を信用できず、自分自身さえも信用できなくなった“先生”に対し、私はその過去を問う。そしてその答えを“先生”は遺書という形によって明らかにする。遺された手紙には、罪の意識により自己否定に生きてきた“先生”の苦悩が克明に記されていた。己の人生に向き合い、誠実であろうとすればするほど、苦しみは深くなり、自分自身を許すことができなくなる…。過去に縛られ、悔やみ、激しい葛藤のなかで身動きのとれなくなった“先生”の人生の様はあなたに何を訴えかけるだろうか。人は弱いものなのか…、シンプルでもありまた不可解でもある人の「こころ」のありようを夏目漱石が問いかける。人はどのように救われるのか？

作者介绍:

夏目漱石

(1867 - 1916)

1867年、江戸牛込馬場下（現在の新宿区喜久井町）に生まれる。帝国大学英文科卒。松山中学、五高等で英語を教え、英国に留学した。留学中は極度の神経症に悩まされたという。帰国後、一高、東大で教鞭をとる。

目录: 上 先生と私  
中 両親と私  
下 先生と遺書  
注解  
漱石の文学  
「こころ」について  
年譜  
・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[こころ\\_下载链接1](#)

标签

夏目漱石

日本文学

日本

文学

日文原版

小説

日本語

日文

## 评论

何遍でも読もう！

-----  
「古典」「巨匠」等という言葉から遠くはなれた場所で  
今も生きているお話だと思います。  
ラストの幕切れがもう。パスンと終わるこの潔さ。  
この幕切れを味わいたいために何度も読んでいます。

-----  
人はどのように救われるのか？

-----  
真的很棒 只是明治时代的文字实在读不明白

-----  
やがて読み終わった

-----  
多读夏目漱石的这部，有意思还见真知。

-----

「过去那种在他面前的屈辱的回忆，这回将使你把脚踏在他的头上。我就是为了不受将来的屈辱，才拒绝现在的尊敬。我宁愿忍受现在的孤独，而不愿忍受将来更大的痛苦。我们生在充满自由、独立和自我的现代，所付出的代价便是不得不尝尝这种孤苦吧。」

-----  
纪念自己读完的第一本长篇原文

-----  
“活了三十余载”与“自杀”，哪个更痛苦呢？（无疑是前者

-----  
私は先生をもっと弱い人と信じていた。そうしてその弱くて高い処に、私の懐かしみの根を置いていた。

-----  
值得一读再读。居然看了一个月多……

-----  
没明白书想说啥。。

-----  
看日语原文应该会效果更佳吧。“无论他成就道义也好，出人头地也罢，我都不关心。我只是担心他突然改变生活轨道，与我的利益发生冲突。”大道理人人都会说，小情小欲和送到眼前的诱惑才是最直接。自私是人性必有的，问题在于平衡与抉择和想通义也是大利

-----  
夏目簌石眾多作品中最好的一本。

-----  
暗くて悲しい物語でしょう。

-----  
[こちら\\_下载链接1](#)

# 书评

-----  
[こころ\\_下载链接1](#)